

「令和4年度 東京医療保健大学 点検・評価報告書」における教育研究活動等の取組状況及び課題等に関する外部評価委員会からのご意見等について

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p><b>【委員A】</b></p> <p>1. 【計画 12-3】(18 頁)「紀要・学会誌への投稿を推進する。」について、「国際会議抄録(Proceedings)の掲載実績はあったものの、英語論文(Paper)の掲載実績はみられなかった。」とのことですが、これは大学としては不味いのではないのでしょうか。</p> <p>「医学中央雑誌における令和4年度の一人あたり記事数は0.81本/人」とのことですが、これは教員の平均として年1回の学会発表をしていないとの意味と取りましたが、これも少ないのではないのでしょうか。</p> <p>2. 【計画 15-6】(34 頁)「2.学会(国際・国内)で、研究成果を発表を促進し、発表する。」についてこの実績として、「国内学会参加人数:24人、国内学会発表人数:12人」とありますが、これも少ないのではないのでしょうか。</p>	<p><b>【医療保健学部医療情報学科 回答】</b></p> <p>ご指摘については真摯に受け止めるべき状況と考えています。新型コロナウイルス感染症流行に伴う授業運営や感染した学生への対応、学修不振学生への授業フォロー、欠席の多い学生や保護者への対応などの業務が多くなっており、十分な研究時間が取れていない部分もあるかもしれません。</p> <p>他方で、研究による教育への波及効果もありますので、組織的な対応をしたいと考えています。論文については、各自年間の目標を立てること、必要な支援について意見収集するなどの手立てを検討いたします。その他、学生対応や事務作業については事務部と連携して負担軽減と効率化につとめ、研究時間の確保を進めたいと思います。また、外部機関との研究連携等必要な手立ても取りたいと思います。何より、研究が楽しいということを教員自ら実践することが最も重要と考えます。</p> <p>なお、学会発表件数は医中誌によるものですので、情報系や工学系のものが含まれておりません。そのため、実数より低くなっていると思われます。こちらの計数についても、researchmapに登録するようにして改善いたします。</p> <p><b>【千葉看護学部看護学科 回答】</b></p> <p>千葉看護学部の学会参加等人数は26人を母数とした結果でした。このため改めて全員に確認をしたところ、参加は33名(94%)、発表は15名(43%)でした。これらは学部完成前にCOVID-19感染拡大が発生し実習施設</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>3. 【計画 23-1】(53 頁)「感染制御実践看護学講座」の継続について、「感染制御認定看護師」との調整は進んでいるのでしょうか。現在も、「感染制御実践看護師」は東京医療保健大学の独自名称なのでしょうか。</p> <p>4. 【計画 7】(8 頁)「2. がん放射線療法看護認定看護師養成課程については閉じる」とのことですが、当初の目論見ではどのような計画でこの養成課程が設定されたのでしょうか。経緯について教えてください。</p>	<p>との調整、オンラインでの演習・学内実習の開発が優先されたこと、一方で研究科を開設しその運営にも注力をする必要があったことによると考えます。しかし大学教員としては全員が参加・発表すべきものと認識しております。2023 年度につきましては現在までに 78%の教員が学会参加をしておりますが、残りの半年における研究活動の促進をめざすとともに、日ごろから研究ありきの風土を醸成すべく努力してまいりたいと存じます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>【大学院医療保健学研究科（感染制御学）回答】</p> <p>「感染制御実践看護学講座」は 2010 年よりスタートし現在約 200 名の修了生が「感染制御実践看護師」として医療現場の感染制御を担っています。この講座は診療報酬の感染対策向上加算の施設基準である「適切な研修」として認められております。本講座は業務を継続しながら受講できることを特徴としており、休職させられない施設側の事情や休職したくない研修生などのニーズに対応した研修会として存在しております。</p> <p>【大学院看護学研究科 回答】</p> <p>2018 年より放射線看護研修センターを立ち上げ、がん放射線看護認定看護師養成課程を開設しました。当初は、全国でがん放射線療法看護認定看護師が必ずしも充足していなかったこと、東京での同養成課程がなかったことから、本邦におけるがん放射線療法看護の質向上に資することを目指し、収支面より 15 名の入学者を想定していました。初年度は 12 名、次年度は 10 名の入学者を受け入れることができましたが、3 年目は 8 名の入学者のみでした。入学者は全員認定試験に合格しております。しかし、4 年目は 5 名の応募しかなく、最低開校人員の 8 名に達せずに開講できませんでした。同時に専任教員が退職</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>5. 【計画 27】(61 頁)「3. 一般選抜においては、C 日程入試の内容を、英語＋選択 1 科目の学力試験に調査書の評価とする見直しを行い、志願者を増加させた。」とありますが、選択 1 科目に減らすと各学力試験での平均点や偏差値の差が直に合格基準に影響すると思いますが、この選択科目間に平均点などの差はなかったのでしょうか。</p> <p>6. 【計画 29】(63 頁)「1, 2 医療保健学部医療情報学科については、残念ながら入学者が 53 名に留まり、3 年ぶりに募集定員を下回る結果となった。」とのことですが、今後の方策はどのようにお考えでしょうか。</p>	<p>したため、人員確保のために日本看護協会を通じての教員募集を複数回行いましたが、採用に至りませんでした。</p> <p>応募者の減少は、高度ながん放射線療法を行う施設が限られていること、必ずしも診療報酬上認定看護師が必要とされなかったことによると考えられ、全国での養成課程も 4 校から 2 校に減少しております。</p> <p>応募者の減少並びに専任教員の確保が困難であることより、その後開講することができませんでした。一方、本学が大学院を開設しており、がん放射線療法看護の高度教育には大学院での教育が相応しいとも考えました。</p> <p>しかし、現在の我が国におけるニーズ及び担当教員、施設整備等私立としてその役割を果たす必要があるかどうかを検討し、現在存続している公的教育機関（県立）2 施設で充分ニーズは満たせるとの判断に至り、大学院での教育課程開設も断念しております。</p> <p><b>【入試事務部 回答】</b></p> <p>令和 4 年度一般選抜 C 日程の科目の平均点の最高は 75.08 点、平均点の最低は 61.8 点であり、当年度 C 日程の受験者の学力レベルや試験問題にもよるとはと思いますが、選択科目間の平均点に最大 13.28 点の差が出ました。</p> <p><b>【入試事務部 回答】</b></p> <p>医療保健学部医療情報学科の令和 5 年度総合型選抜の選抜方法を、これまでの自己推薦書及び面接から、自己推薦書、課題探求型レポート及び面接に変更して実施しました。</p> <p>また令和 6 年度入試においては、総合型選抜で、従来の課題探究型、資格保有型に加え自己推薦書と面接による面接重視型の選抜を行うこととし、学校推薦</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>7. 【計画 46】(88 頁)「科学研究費助成事業新規申請件数及び採択件数」をみると令和元年に 22 件だったものが、令和 3 年 4 年は 7 から 8 件と激減していますが、これは何か理由があるでしょうか。</p> <p>8. 【計画 79】(117 頁)「毎年 9 月の第 2 週に全教職員を対象にストレスチェックを実施している。分析結果について、全学衛生委員会で問題点の共有を図り各学部及び事務局内においても衛生 委員からの情報共有を行っている。」とのことですが、看護系の大学では教員のストレスが大きいようですが、このストレスチェックの結果からは貴学での教員のストレスが大きいかどうかは、垣間見ることが出来るのでしょうか。それが見て取れるなら、ストレス軽減の対策についても教えてください。</p>	<p>型選抜では、推薦に必要な評定平均を従来から 0.2 引き下げることとし、一般選抜及び大学入学共通テストでは、必須科目であった英語を選択科目に変更し、2 科目選択で、得意科目の配点に係数をかけて評価する高得点科目重視方式を採用することとして、受験生の獲得増を目指しています。</p> <p>【研究協力部 回答】 申請件数では平成 28 年度から右肩上がりで増加傾向が続いており、令和元年度が 55 件と最も多くなっておりましたが、令和 2 年度 47 件、令和 3 年度 30 件、令和 4 年度も 41 件と低迷しております。 その主な理由は、コロナ禍への対応のため、①対面授業からオンライン授業対応のための準備作業等の業務増、②出席停止学生に対する個別学習指導③特にコロナ禍当初は手探り状態での学修コンテンツの開発等による業務増などにより研究にかける時間減少が考えられます。 また、教員の研究時間の減少については、日本看護系大学協議会 (JANPU) の看護系大学教員のコロナ禍による研究活動への影響調査 (2020 年度実施) においても、50%の教員が「研究に費やす時間が減った」と回答しております。</p> <p>【総務人事部 回答】 本学の実施した令和 4 年度ストレスチェックの結果からは、「総合健康リスク」は、全国平均 100 とした場合、本学は 95 とリスクは平均比やや低い結果です。 (数字が小さいほどリスクが少ない) 一方、潜在的ハイリスク者としての高ストレス者も全体の 18.3% (前回比△5.1%) と改善したものの厚労省の想定 10%に比べて未だ高い状態にあります。内訳としては長時間労働に起因したものは少なく、仕事の量と質にプレッシャーを受けているのが主因です。ここについては、裁量労働にて個人でコン</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
	<p>トロールの余地を与えており、同時に上司のサポートには評価が高く、ストレス軽減に寄与しています。ハラスメントに関しては、全体で11.3%（前年比△1.1%）となっていますが、その後実施したハラスメント研修会のアンケート結果でハラスメントの訴えが増えているキャンパスもあり、ある学部においては、令和5年度人事部が教職員全員に聞き取り調査を行い、個別に対策を打っているところです。また、全体に対するハラスメント防止研修も、前倒しで実施するなど、全学衛生委員会で協議し対策を強化しております。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p><b>【委員B】</b></p> <p>1. 令和4年度計画に基づく令和4年度計画達成状況に関しては、大変綿密で内容の濃い計画に対して、それぞれ満足すべき成果が上がっており非常に高く評価します。一方、『今後の課題とする。』という表現にあるように、未達成の部分をこれからどのように対応するか、という視点でのコメントや、今後の計画立案に対する改善点に関する振り返りが少ない印象を受けます。</p> <p>2. 内容的には非常に充実しており、非常に高く評価できます。一方で、大学院で学ぶことによるキャリアパスが分かりにくく、学生がより魅力を感じ、自ら主体的に進路を選択できるような未来を示せるとより良いと思います。</p> <p>また、働き方改革が進む中で、男女共同参画、介護、育児などにおける医療現場での歪をどのように解決するかなど、世の中のニーズに合った取組も検討頂きたいです。</p> <p>さらに、本来は学生の教学が最重要ですが、大学教官としての研究面の発展も今後一層期待します。</p>	<p><b>【企画部 回答】</b></p> <p>「令和4年度計画の達成状況に基づく自己点検・評価報告書作成要領」において、各年度計画の担当部局(各学部・学科、研究科、専攻科、センター及び事務部各部等)は、各計画ごとの達成状況等を評価指標(KPI)等を用いて自己点検・評価した上で、その達成状況等を評価区分(達成状況に応じた4段階の区分)が下位のⅡかⅠの場合には、今後の改善方策等も併せて記載することとされていたところです。</p> <p>しかしながら、このような点検・評価方法を取り入れたのが、令和4年度が初めてのことでもあり、十分に徹底できていない点は反省しております。</p> <p>次年度の課題として、ご指摘いただいたとおり、達成度が不十分な場合には今後の改善方策等を明確に記載するよう徹底してまいります。</p> <p><b>【大学院医療保健学研究科 回答】</b></p> <p>大学教員や研究者以外のキャリアパスについては、大学院全体として未だ発展段階です。看護系の博士修了者は、大学教員や研究者への移行が多いですが、大学、病院や民間企業などへの着地先が自身が望むものといった環境であるのか、そのキャリアパスを捉えていくことは重要と考えます。</p> <p>現行は、修了生に対する終了後の進路先などの調査は実施していますが、継続し、修了後の環境を整備していくことは重要であります。大学院生の参加や発表の場の提供として、大学院公開講座などのセミナーを実施し、院生の研究発表や学習の機会を設けており、参加者からは高い評価を得ています。今後は、意見・感想などのアンケート調査ではなく、セミナーの効果を測定するなど、学修への支援の質向上に繋げていくこと、また、「キャリアパスの可視化」も課題です。大学院修了後の多様なモデルケースを提示していくこと等は、</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
	<p>キャリアパスを明確化し、今後の大学院進学者の確保へと繋がる取り組みを検討していく予定です。</p> <p><b>【大学院看護学研究科 回答】</b></p> <p>看護学研究科では、修士課程・博士課程を通じて学生に分かりやすく、且つ魅力を感じる教育課程を再編成しているところです。修士課程では、すでに特徴ある高度実践看護コース（診療看護師（NP）養成）に加え、助産師または保健師の国家資格取得とともに研究能力を養成する高度実践助産並びに高度実践公衆衛生看護コースのカリキュラムを刷新してきました。</p> <p>さらに看護科学コースでは、本年度より看護管理を専門とした看護管理者プログラムを新設し、来年度からは看護教育・研究者を目指す方のための看護教育・研究者プログラムを開設する予定で進めています。</p> <p>これらの修士課程教育の再編に引き続き、より高度な研究能力を養成する博士課程の再構築を進めております。新たな博士課程では、刷新した修士課程で学んだ内容を継続的且つより専門的に発展させることができるようにし、学生にわかりやすい内容とすることを目指しています。</p> <p><b>【大学院和歌山看護学研究科 回答】</b></p> <p>日本看護協会 認定看護管理者受験資格が取得でき、1期生が合格しました。和歌山県では、認定看護管理者になるためのファーストレベル、セカンドレベルの研修を和歌山県看護協会で行っていますが、最終段階のサードレベルの研修がありません。看護管理者へのキャリアパスとして推奨される資格です。また、和歌山看護学研究科は、マネジメント、実践、教育という3つの領域を選択するようになっており、今後の進路を考えて選択が可能です。</p> <p><b>【大学院千葉看護学研究科 回答】</b></p> <p>千葉看護学研究科では、カリキュラムマップとして、入学者のニーズに応じて選択できる4つの修了後の姿（コミュニティでのケア推進、臨床課題の解決</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>3. 課題に関しては、その時代、世界情勢とともに変わっていくと考えられます。現在は国策とも言えるダイバーシティーに関して、大学をあげての取組が重要となります。各大学や企業は本格的に力を入れています。貴学では、その取組が不足しているようであり、全学として強化して欲しいと思います。学長を始めとして、各大学における取組を明確に</p>	<p>推進、看護学生・現任教育機能推進、組織での看護管理機能推進)を示しています。<a href="https://www.thcu.ac.jp/graduate/chiba/master/img/curriculum.png">https://www.thcu.ac.jp/graduate/chiba/master/img/curriculum.png</a>ここに向かって科目を4段階に明示することで、入学前から終了後の姿をイメージして本研究科を志向し、入学後も学生が自ら望むキャリアに向かって、主体的に学修を進めることができるようにしています。また、2023年3月に輩出した第1回修了生の状況をJCHO学会においてポスター発表をすることとしており、実績を積み重ね見える化していきたいと考えております。</p> <p><b>【企画部 回答】</b></p> <p>本学でも、仕事や介護、育児等を抱えながらも大学院に学ぶ社会人学生が多く在学しております。より社会人学生が学びやすい環境を整備することも本学の使命であり、国・関連病院等とも連携しながら様々な視点で社会人学生を支援する取組が必要であると認識しております。</p> <p>例えば、令和6年度の修士課程入学者からは、国の「授業料後払い制度」が創設されることとなっておりますので、負担軽減の観点からもこのような制度の有効活用の検討を進めてまいります。</p> <p><b>【研究協力部 回答】</b></p> <p>学生の指導等教学に重点を置きつつも、研究時間の確保に努め、研究募集情報の提供なども含め、今後さらなる研究活動の活性化を推進することが重要と考えております。</p> <p><b>【総務人事部 回答】</b></p> <p>ダイバーシティーに関する大学としての取り組みの明確化につき、ご指導を賜りありがとうございます。</p> <p>本学規模の大学であっても出来るところから取り組みを強化し、それを執行部から明確に発信してゆく重要性を改めて認識いたしました。まずは、『ダイバ</p>



委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>執行部から発信することが今後強く求められます。ダイバーシティに関しては、①少子高齢化、②働き方の多様性、③グローバル化の影響、④フレックス制の導入、⑤働き方改革など、貴学運営に深く関係する課題が山積しています。これまでは計画が多岐に及び、総花的な感じがありました。今後は、ダイバーシティに関して大学としての取組の明確化が課題です。他大学・企業の方針なども参考にして、時代に応じた努力が求められるため、各大学、各企業で盛んに行われている『ダイバーシティシンポジウム』に積極的に参加して参考にしていただきたいと思えます。</p> <p>4. 令和4年度の計画および結果達成に関しては問題ないが、長期的な観点からの揺るがない貴学の目指すところを『理念』として高所大所から分かりやすく発信して欲しいと思えます。貴学の使命（ミッション）を明確に謳い、どのような大学・成果を目指すのかという将来像（ビジョン）を明確化することが大切です。上記に関しては、貴学の理念を学生やご父兄を始め、他大学にも明確に示すことが好ましいです。①大学②学生③社会の『3方良し』を実現するための理念を共有し、貴学の高邁な理念を大学全体に広く浸透させて、大学が一丸となって進むことを期待します。</p>	<p>『ダイバーシティシンポジウム』に積極的に参加して、情報収集を行い、本学としての方針立案の参考にしてまいりたいと存じます。その上で、ホームページ等で大学からのメッセージとして発信してまいりたいと存じます。</p> <p>【企画部 回答】</p> <p>本学の建学の精神及び教育理念・目的並びに大学ビジョン等を実現するため、第3期中期・目標計画を策定し現在実行しているところです。</p> <p>大学・学部・研究科等の理念・目的については、学則、履修案内等に明記した上で構成員に対し説明するとともに、本学のホームページ等を活用し、大学構成員及び広く社会にも公表しています。</p> <p>また、学生に対しては、新入生及び各学年ごとのガイダンスの実施や、教職員に対しては、全学及び各キャンパスごとの教職員オリエンテーションを実施しています。</p> <p>さらに、各キャンパスには、デジタルサイネージを設置しており、学生に関する各種情報提供のほか、大学の校歌や大学ビジョンが流れるなど、建学の精神や大学の理念及び大学ビジョンの周知や涵養等を図っています。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p><b>【委員 C】</b></p> <p>1. 【計画 10-1】(11 頁) 卒業時到達目標・学年目標の自己評価の実施率が、評価指標を上回ったことは大変好ましく、教員、学生及び職員が協働した努力の成果と存じます。各学生による自己評価で、共通して点数が低かった項目、逆に高かった項目はありますか？もしあれば、低かった項目に対する大学側の次年度に向けた取り組みをお教えてください。</p> <p>2. 【計画 10-2】(11 頁) 外国人模擬患者を対象としたプログラムへの参加者が少なくアンケート回収率も低いように感じますが、如何でしょうか。</p>	<p><b>【医療保健学部看護学科 回答】</b></p> <p>令和 4 年度の卒業時到達目標・学年目標の自己評価で、全学年で共通して最も達成できたと考える卒業時到達目標は、DP I（豊かな教養と人間性に支えられ、人間としての思いやり・人との絆・生命の畏敬・倫理観をもって看護を実践できる能力）であり、学年目標では①人間について深く理解しようとすることができる、②人間としての尊厳を理解し、敬意をこめた関りができる、でした。特に②については低学年に比べ上位学年で最も達成できたと評価する傾向がありました。その一方で、全学年で共通して最も達成が難しかった卒業時到達目標は DP V（国際化・情報化に対応できる幅広い視野と語学力・スキルをもって社会の要請に応えられる能力）であり、学年目標としては②語学力・情報リテラシーをもって、人々の健康課題に対する自己の考えを社会に向けて発信する、があがりました。この背景には他の DP に比べ、選択科目の割合が 45% と高いことが考えます。そのため令和 4 年度より、ヘルスデータサイエンスプログラム（保健看護データコース）の広報とともに、「国際看護論」の内容刷新、履修学年の拡大を図りました。併せて令和 5 年度より、全ての授業科目の DP の重み付けを行いました。これにより学生は、卒業時到達目標・学年目標の自己評価にあたって、より適正化された客観的評価（ディプロマ・サプリメント）を活用できると考えております。</p> <p><b>【医療保健学部看護学科 回答】</b></p> <p>4 学年に募集をかけていますが、春休みの時期の実施となること、コロナ禍による雰囲気や学生の参加に影響を及ぼしていることが考えられます。今後は、スケジュール（日程に縮小が可能かどうか）、や学生へのメリット（単位化することなど）も検討していきたいと考えております。アンケート回収率が低い</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>3. 【計画 10-3】（12 頁）学生アンケートを実施し、回収率そして満足度も高いことは評価できます。一方、学生アンケートでは適切に評価できない事項もあろうかと思しますので、様々な手法により評価を実施されるようお願い致します。今後の評価の在り方についてのお考えをお聞かせください。</p> <p>4. 【計画 10-4】（13 頁）外部機関での臨地実習指導者の標準化は到達目標の達成において、極めて重要ですが、多くの困難があろうかと思します。困難事例とその対応についてお教えてください。</p> <p>5. 【計画 10-5】（13 頁）ホームカミングデイへの参加者が少ないように感じます。如何でしょうか。</p>	<p>ことについては、今後、呼びかけを強化したいと思います。</p> <p>【医療保健学部看護学科 回答】 今後の評価についてですが、学生アンケートはもう 2 年ほどは継続して実施したいと思っております。一方、ガイダンスを実施していますアドバイザーの先生や相談先となる保健室やカウンセラーの先生に、「ガイダンスでの案内が実際の相談に結びついていると思われるか」等ヒアリングし、学生アンケートとともに分析・評価したいと存じます。</p> <p>【医療保健学部看護学科 回答】 困難と思われる点は、実習指導者の役割は各施設により違いがあることや経験があるがゆえに指導者個人が指導したいことに特化してしまいがちなこと、また方法論に注目しがちなところ等です。そのための対応として、大学における実習教育の意義や本学のカリキュラム、到達目標に向けて学びを引き出す考え方を基盤に、指導者自身が実際の指導の場面を事例としてリフレクションできるように往還型（講義→実習指導実践→リフレクション）の経験学習プログラムを実施しています。さらに他施設の指導者との情報交換では実習指導者としての役割を振り返り、気づきを促す有用な機会となっております。ほかに実習指導者との意識合わせに関し、実習指導者研修会とあわせ大学と実習施設が集まる臨地実習協議会を年 1 回開催し、共通認識で実習指導に当たるようにしています。</p> <p>【医療保健学部看護学科 回答】 2023 年 1 月 13 日に実施し、就職対策委員を除く 37 名（卒業生 5 名、在学生・大学院生 5 名、教職員 27 名）の参加がありました。第 1 部では「今、求めら</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>6. 【計画 11-3】（15 頁）卒業生対象の企画は難しいと実感しております。管理栄養士国試対策への参加者が少ないようですが、事前にニーズ調査などを行われましたでしょうか。</p> <p>7. 【計画 12-2、14-2】（18 頁、21 頁）卒業生への支援について、卒業後に連絡を取ることが困難になることもあろうかと思えます。その中で、連絡先を確保しこのような努力をされていることは評価に値します。</p>	<p>れる地域におけるプライマリ・ケアの実践」のテーマにマギーズ東京の秋山正子先生の教育講演を実施し、第 2 部では交流会を実施しました。全体の満足度は非常に高く、特に好評だった教育講演はプライマリ・ケアについての学びを通して今後の看護について考える機会となりました。</p> <p>開催周知に関しては教員からの声掛け、同窓会を通じた案内の配信、昨年度の参加者への案内の他、今年度は実習施設に手渡しでチラシを配布するなど周知活動を行いました。参加には結びつきませんでした。教職員以外の参加者が少ないことからホームカミングデイの方向性を再検討する必要があり、特に参加者が少ない卒業生については次年度の早期にニーズ把握や周知方法検討が必要です。</p> <p>またハイブリッド形式での開催希望が多くみられますが、マンパワー不足で実施が困難な現状があるため、共催等の協力も含め検討が必要であると考えます。</p> <p>【医療保健学部医療栄養学科 回答】</p> <p>昨年度、卒業生に「国家試験のサポート希望の有無」および「具体的なサポート」に関するアンケートを実施しニーズの把握を試みました。しかし、「希望する」は数名で、「具体的なサポート」の記載もなく、ニーズの把握には至りませんでした。</p> <p>今後はホームカミングデイなどで聞き取りをしてニーズを把握し、参加者増加に努めたいと考えております。</p> <p>【医療保健学部医療情報学科 回答】</p> <p>講座（医療情報技師資格取得目的）開設に関連する企業に卒業生が多く就職でき、彼らの活躍がこのような企業との関係性の構築に繋がっていると考えてい</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>8. 【計画 12-3】(18 頁) 英語論文作成支援部署や URA(※)などは配置されていらっしゃるでしょうか？</p> <p>(※)URA…リサーチ・アドミニストレーター (University Research Administrator)。大学などの高等教育研究機関において、研究者及び事務職員とともに研究資源の導入促進、研究活動の企画・マネジメント、研究成果の活用促進を行って、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化を支える業務に従事する人材のこと。</p>	<p>ます。卒業生以外の社員も含め、毎年 10 数名の受講者がいます。主に病院の情報システム運用保守管理を担う人材として、各地の病院で医療専門職と一緒に働く上で、医療情報技師の資格は彼ら自身の役割を証明することにもなりますので、今後もその輪を広げていければと考えています。</p> <p>【立川看護学部看護学科 回答】</p> <p>一昨年から、卒業式で卒業後に利用できる立川看護学部卒業生相談窓口のメールアドレス (tns-soudan@thcu.ac.jp) を配布してきましたが、現在まであまり利用されず、個別にゼミの教員宛に相談の連絡が届いているような状況でした。そこで、より多くの卒業生と円滑なコミュニケーションを取れるように、学生支援センターから卒業生のメールアドレスを教えていただき、Google Group の機能を使って、立川看護学部卒業生のメーリングリストを新たに作成しました。ホームカミングデイに関してのお知らせなど活用計画を検討しています。一方で、3 年次後半からのゼミによる看護研究などの授業展開や、就職支援・国家試験対策などの支援も学生の一体感や教員との信頼関係に重要な場となっていますので、引き続き努力してまいります。</p> <p>【医療保健学医療情報学科 回答】</p> <p>英語論文作成支援部署は配置しておりません。深層学習等を用いたサービス、民間サービスもありますので、その活用を進める方がコストパフォーマンスとして合理的と考えます。</p> <p>また、URA の配置ありませんが、総合研究所がセミナーや講演会の開催、研究助成などについて企業や関連機関との情報交換をしたり、その他、産学連携案件の相談に乗っています。今後、シーズとニーズを結びつけるだけでなく、研究者のポテンシャルを活かし、また高めるべく配置ができればと考えます。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>9. 【計画 13-1】(18 頁) アクティブラーニングを取り入れている科目は全科目の何%程度ですか？演習や実習はアクティブラーニングですが、講義科目でも何%程度取り入れられているか教えてください。</p> <p>10. 【計画 14-4】(22 頁) シミュレーション教材について、コロナ収束後もバーチャル教材を事前事後学修に活用することが学修効果を高めるものと存じます。更なる教材の開発と活用に務めて頂きますようお願い致します。</p> <p>11. 【計画 14-6】(24 頁) 実施された広報企画への参加者が貴学の志願者そして入学者に繋がったケースは何名ほどでしょうか。</p>	<p>【東が丘看護学部看護学科 回答】 2022 年度は 97 科目(124 単位)と 98 科目(129 単位)の学年が学んでいます。それぞれ演習と実習科目は併せて約 15 科目(30~33 単位)、主として講義中心の科目数は 82 科目です。講義の中でシラバスに表示しアクティブラーニング(AL/PBL)を導入している科目数は 66 科目であり、演習と実習科目を除き講義科目では 80.5%の導入率です。因みに AL の具体的導入は、発見学習、課題解決学習、体験学習・シミュレーター、ロールプレイ、調査学習、グループワーク、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション、大福帳/ミニット等です。</p> <p>【立川看護学部看護学科 回答】 今年度から、AMED(国立研究開発法人日本医療研究開発機構)からの支援を受けている株式会社ジョリーグッドと協働で実習等に利用できる VR 教材の開発を行っています。現在、災害看護関連(3 本)、医療安全関連(2 本)、術前・術中・術後看護関連(7 本)のコンテンツを災害医療センターの看護部や DMAT と共同作成し、実際の実習でも利用を始めました。また、コンテンツの作成や演習での利用効果等に関しては、順次学会発表を行う予定とし、まず今年度の第 43 回日本看護科学学会学術集会において「産学と実習施設連携における教育の試み—医療安全学 VR 教材の開発—」のタイトルで発表予定です。</p> <p>【立川看護学部看護学科 回答】 入試広報部からのデータですと、昨年度は立川看護学部全受験者 482 人のうち約 30%(146 人)が立川看護学部のイベントに参加しています。立川看護学部イベント参加数(受験対象者の参加人数 303 人)から見ますと、その参加者の</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>12. 【計画 17-3】(39 頁) 海外発表及び外国語論文投稿を推進する支援部署、URA などは配置されていらっしゃるでしょうか？もしくはそのご予定がありますか？</p>	<p>うち 48%が受験し、立川看護学部入学者のうち 56% (66 人) が立川看護学部イベントに参加しています。今年度の立川看護学部新入生に対して行ったアンケートでは、オープンキャンパスが「とても役立った」という学生は 73.3%、「少し役立った」と 21.1%の学生が回答しており、学生の期待に対してイベント企画内容のさらなる充実が重要と考えます。最近、高校で行う大学教員の模擬授業に在校生が出身校の先輩として参加する、オープンキャンパスの個別相談会や模擬講義の企画などにも在校生に積極的に参加してもらっていることが、「大学の雰囲気を感じて身近に感じる」と好評です。オープンキャンパスに参加する学生の受験経験をもって受験生の身になっているところが、参加者の緊張を和らげ打ち解けやすい場を作りますし、保護者は主体的に参加する大学生の雰囲気をプラスに感じるようです。また参加する大学生自身も自らの経験になるということで、Win-Win の関係が生まれるため、今後も積極的に在校生の協力を得ていきたいと考えています。</p> <p><b>【医療保健学部看護学科 回答】</b></p> <p>高等教育への期待と要求に伴い、大学における業務は多種多様化し、其々に求められる水準も高まりつつあります。多様化し高度化する業務を誰がどう担うか、近年の大学改革における大きなテーマです。</p> <p>研究推進支援を担う専門人材として大学リサーチ・アドミニストレーターが配置されるようになり、さらに、インスティトゥーショナル・リサーチャー (IRer)、産学官連携コーディネーター、アドミッション・オフィサー、カリキュラム・コーディネーター等の職が聞かれます。高度専門職の採用・育成と事務職員の高度化による教職協働は、多様化・高度化する大学の業務の担い手として、高度専門職と事務職員に大きな期待が寄せられていることは確かです。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>13. 【計画 19-1】(42 頁) DP を実現する体系的大学院教育について、計画された施策を着実に実行されていることは好ましいが、DP の到達度の観点から実施された施策を評価して頂きたい。</p> <p>14. 【計画 25-5】(59 頁) 医中誌ベースでの研究業績の低減が気になります。向上につなげる施策を既にお考えでしたらお教えてください。</p>	<p>日本においても URA に期待する役割や実際の業務は大学ごとに多様であり、時々状況に応じて変化してきた面もあります。URA の関与が高い業務は、外部資金情報収集 (76%)、研究力分析 (73%)、申請資料作成支援 (70%)、研究プロジェクト企画立案支援 (68%) などとされています。当学でも科学研究費など研究支援部は協働をしていますが、今後の発展的な課題として検討します。</p> <p>【大学院千葉看護学研究科 回答】  千葉看護学研究科では、DP として地域医療において必要な看護の本質を「掴み」、「多様な個人・集団を「繋ぎ」、人々に看護機能を「示す」力を培うことを掲げています。これを達成するため、授業に加えて、地域住民ならびに地域の医療・福祉等に関わる多様な人々との交流を語る地域交流イベントにおいて、研究科 1 年次後期の必修科目「看護機能推進演習」の演習成果をポスター発表いたしました。発表においては参加された地域住民の方、ならびに政策提案・立案者（地方議員、船橋市役所職員、等）との交流も語ることで、DP の達成が促進されたと考えます。</p> <p>【IR 推進室 回答】  研究業績の底上げについては、教育の質にも影響を及ぼすため重要課題と認識しています。このため総合研究所では研究所長（学長）のリーダーシップにより民間企業と連携した外部資金の獲得に努めており、その拠出元企業の意向も踏まえて、若手教員の研究・社会活動支援を開始しました。2021 年度末には TIS 株式会社との連携により 3 件の助成を行ったことから、本年度はその成果が報告される予定です。2022 年度には株式会社ケアコムと、2023 年度には京急サービス株式会社との包括提携協定を締結し、研究支援の裾野拡大は進ん</p>



委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>15. 各校、各学部それぞれが、多岐にわたる施策を着実に実施し、アンケートを主たる手法として評価を実施されています。(学生)アンケートは有効な評価手法ですが、様々な手法による評価により、PDCAサイクルを回して改善に役立てて頂きますようお願い致します。</p> <p>16. 研究科においては、困難な面があるかと存じますが、一層の充実が図られることを期待しております。</p>	<p>でいます。今後も民間企業との緊密な関係を続け、私立大学ならではの研究支援を行ってまいります。</p> <p><b>【IR推進室 回答】</b> IR推進室では、集計結果を内部質保証推進会議での検討の材料として提出させていただくとともに、2022年度にはIR年報を作成し教職員に公開いたしました。また、新たな視点での分析手法を模索し、改善に役立てたいと考えております。</p> <p><b>【大学院医療保健学研究科 回答】</b> 教育の内容については、社会ニーズに照らして、大学院教育課程の各領域の課題を把握し、看護学単科でない大学の特色を活かした改善を検討します。また、新設した高度実践看護師の充実化を図り、教育内容を検討します。学生の受入れについては、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に基づき、保健、医療及び福祉等を含む様々な領域から、広く職業経験を有する社会人や留学生などを安定的に確保するために大学院の広報活動としてオープンキャンパスやホームページの充実化、キャリアパスなどの可視化を図り、院生に対して、大学院でのキャリア形成について啓発を行います。</p> <p><b>【大学院看護学研究科 回答】</b> 看護学研究科では、修士課程・博士課程を再編成している過程にあります。修士課程では、高度実践看護コース（診療看護師（NP）養成）に加え、助産師または保健師の国家資格取得とともに研究能力を養成する高度実践助産並びに高度実践公衆衛生看護コースのカリキュラムを刷新してきました。看護科学コースでは、本年度より看護管理を専門とした看護管理者プログラムを新設しました。さらに、来年度からは看護における看護教育・研究者を目指す方の</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
	<p>ための看護教育・研究者プログラムを新たに開設する予定です。学部修了生の離職防止の意味を含めて、卒後3年から5年の看護師が、働きながら週2日間学びを深めるリカレント教育を目指して開設を進めています。</p> <p>修士課程修了後、引き続き高度な研究能力を養成する博士課程の再構築を進めております。新たな博士課程では、刷新した修士課程で学んだ内容をさらに高度に発展させることができるように、看護教員も専門性を深めて研究指導ができる整備を致したいと考えており、検討中です。</p> <p>【大学院和歌山看護学研究科 回答】</p> <p>和歌山県では看護学を学ぶ大学院が2校であり、大学は3校になったばかりです。大学で看護学を学ぶという意識改革から進める必要を感じています。社会人が仕事と両立できるために、オンラインでの授業参加を選択できること、教育訓練給付制度の活用、入学前のプレセミナーを行っています。科目履修制度で大学院での学びを体験できるようにしており、現在2名の科目履修生が次年度入学に向けて受験の予定です。</p> <p>【大学院千葉看護学研究科 回答】</p> <p>千葉看護学研究科は2022年度に第1回の修了生を輩出いたしました。研究業績の低減については、各修了生が修士論文を学会発表へとつなげており、今後の原著化をはかっているところです。引き続き研究成果の積み上げに努力をしてまいります。</p> <p>授業評価アンケートについては、結果を科目担当教員で確認し、授業の効果ならびに改善のための課題を確認し、次年度の科目運営につなげています。授業評価は好結果が多く、これは全員が社会人である大学院生の個々の立場や関心に応じて授業での教材や話題を準備していること、特別研究における進捗管理を実施していることと、研究科運営会議において各科目に共通する課題を確認し、学修支援、学生生活支援、キャリア支援につなげているためと考えま</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>17. コロナ禍であるにも拘らず、外部評価委員会への参加が回を重ねるごとに「点検・評価報告書」の内容そして委員会での質疑応答が充実してきております。また、学長のリーダーシップの下、教職員一丸となって貴学を改善して行こうとする姿を随所で見ることが出来ます。貴学の一層の発展を祈念しております。</p>	<p>す。加えて、2022 年度には研究科 FD として和歌山看護学研究科と共同し、特別研究指導に関する学生とその指導教員とから教育支援に対する評価を直接得る機会を設定しました。今後は授業評価について学生と直接検討をする機会を設定し、目標達成に向けたより効果的な支援を探索していきたいと考えます。</p> <p>【企画部 回答】</p> <p>第 3 期中期目標・計画に係る点検・評価については、毎年度、各計画ごとの達成状況等を評価指標(KPI)等を用いて自己点検・評価した上で、その達成状況等を評価区分(達成状況に応じた4段階の区分)で明示し、下位のⅡかⅠの場合には、今後の改善方策等も併せて記載することとしていたところですが、このことにより、従来の点検・評価では、出来たことは明らかにされているが、出来なかったことは必ずしも明確化されていなかった点を反省し、課題も明確化するようなシステムに改善したところです。</p> <p>しかしながら、高戸委員からご指摘いただいたように、このような点検・評価方法を取り入れたのが、令和4年度が初めてのことであり、十分に徹底できていない点は反省しております。次年度の課題として、達成度が不十分な場合には今後の改善方策等を明確に記載するよう徹底してまいります。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p><b>【委員 D】</b></p> <p>1. 【計画 10-2】（11 頁）グローバル人材育成のプログラムは充実しており参加者も多いようです。コロナ感染症は引き続き注意を要しますが、海外での研修等も積極的に計画してほしいと思います。</p> <p>2. 【計画 10-5】（13 頁）ホームカミングデイはもう少し出席が欲しいです。</p> <p>3. 【計画 11-3】（15 頁）管理栄養士国家試験のための卒業生向け対策講座に希望がなかった点：卒業生を対象にニーズ調査等を行って分析し、それに基づいて国家試験合格者数を増やすための対策を持ってはいかがでしょうか。</p>	<p><b>【医療保健学部看護学科 回答】</b></p> <p>海外研修は、全学の国際交流委員会で検討して実施しています。学生にとって実際に海外に行くことでの学びは大きいと考えていますので、国際交流委員会との連携も図れればと考えております。</p> <p><b>【医療保健学部看護学科 回答】</b></p> <p>講演は充実した内容で参加者の満足度も高かったですが、卒業生の関心に訴えることができなかつたと考えます。そこで 2023 年度は、前年度の反省も踏まえ卒業生をパネラーとして迎える方法で実施いたします。各年代の卒業生が、就職後の困難をどのように乗り越えてキャリアを形成してきているか語っていただく予定です。卒業生は、2009 年、2016 年、2021 年と各年代を網羅し、仲間を呼び込む形で参加者増を期待しています。今後、HP や同窓生の SNS なども活用した広報活動を行い参加者の増加を図っていきたくと考えます。</p> <p><b>【医療保健学部医療栄養学科 回答】</b></p> <p>昨年度、卒業生に「国家試験のサポート希望の有無」および「具体的なサポート」に関するアンケートを実施しニーズの把握を試みました。しかし、「希望する」は数名で、「具体的なサポート」の記載もなくニーズの把握には至りませんでした。</p> <p>今後はホームカミングデイなどで聞き取りをしてニーズを把握し、参加者増加に努めたいと考えております。また、不合格になった卒業生は管理栄養士資格取得へのモチベーションが低い傾向にあります。対策講座に参加すること以前に管理栄養士資格取得に対するモチベーションを向上させるにはどうしたらよいか検討したいと考えております。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>4. (17 頁) 医療情報学科は志願者数も少なく、学科の在り方として再検討が必要ではないでしょうか。データサイエンスが重視されるなど、時代の波は当学科にとって好都合な流れであるにもかかわらず志願者数を増やせない理由を検討すべきだと考えます。</p> <p>5. 【計画 13-1】(18 頁) アクティブラーニングの内容はどのようなものでしょうか。 プロセスだけでなく、アウトカム評価を入れてはどうでしょうか。</p>	<p><b>【医療保健学部医療情報学科 回答】</b></p> <p>委員ご指摘の点は大変重要なポイントです。本学科では、令和 4 年度に学科の在り方に関わる検討・見直しを実施しました。具体的にはデータサイエンスの新時代を見据えて、ミッション・ビジョン・バリューの策定、三つの方針の改正、新カリキュラムへの変更を実行いたしました。また、入試の見直しを令和 4 年度、5 年度と行なっています。</p> <p>志願者数が広がらない理由については、種々の調査、聞き取り等から一番大きいインパクトは少子化であり、次に入学定員の厳格化の緩和と考えます。</p> <p>また、高校生及び一般の方には医療情報という言葉からデータサイエンス、情報学のイメージが浮かびにくいという面もあるかと思えます。現状と同じ手法では減少しますので、自らで新しいマーケットを開拓することが必要と考えます。また、高校生の進学については、リアルな現実社会の問題やニーズよりは、国家資格取得の有無や、大学名のブランドが影響する面があります。データサイエンス、模試での志願者数をみても、データサイエンス、情報関連分野は増加でなく、横ばいの傾向です。</p> <p>文科省の成長分野転換支援に採択されましたので、委員指摘の問題解決について、外部リソースも活用しマーケット調査を実施します。十分な分析の上、医療系の大学のデータサイエンス分野の好事例・先駆者となるため戦略的に改革を実行する所存です。今後ともご指導のほどよろしくお願ひします。</p> <p><b>【東が丘看護学部看護学科 回答】</b></p> <p>2022 年度は 97 科目(124 単位)と 98 科目(129 単位)の学年が学んでいました。それぞれ演習と実習科目数は 2 科目、13 科目、主として講義中心の科目数は 82 科目でした(盛田委員の質問 9(7 頁)の回答欄に AL の具体的内容を記載</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>6. 【計画 23-2】(54 頁) 感染対策への支援とする施設は高齢者ケア施設だけではなくその他の福祉関連施設も重要です。本当にニーズがないのか、本学としては感染制御実践看護師の教育をとどめることでニーズに応えているのか、意思決定すべきではないでしょうか。地域ベースでの需給バランスの確認など。</p> <p>7. 【計画 25-5】(59 頁) 原著が減っているのは COVID-19 に伴う教員の雑務増加とそれに伴う研究時間の減少・教員の疲弊はないでしょうか。</p> <p>8. 研究活動の伸びの低迷が懸念されます。まずは教員が多忙な中でも研究のできる環境に置かれて、研究に対するインセンティブを持てているかが重要と思われます。</p>	<p>しています)。アウトカム評価については、シラバスに学位授与の方針(DP)を記載し、それぞれの科目における DP に重みづけをし、科目毎に率で表示しています。学生全員の科目の成績が出ますと他の科目を合算し年間 2 回の学年全体の科目毎成績評価を出しています。学生個人及び保証人に評価結果を fGPA で送っております。また、学年が進みますとデータは積み上り、4 年次には DP の卒業時の達成率が個人毎、学年毎、4 年間全体が出ます。更に学生の授業評価、卒業時のアンケート及び教員の評価等のクロス集計を含めて IR 推進室でデータを集計し公表するようになりましたので、アウトカム評価は出来ていると考えています。</p> <p>【大学院医療保健学研究科(感染制御学)回答】  高年齢福祉施設の感染対策に関わる課題が山積していることは十分認識しています。一方、本学の感染制御実践看護学講座の修了生が各地域で高年齢福祉施設の支援活動も実施しています。本学としては、直接的に高年齢福祉施設の従事者育成に取り組むより、波及的に高年齢福祉施設支援を含む社会的活動に貢献できる感染制御実践看護師の育成に力点を置くことが現実的と考えています。</p> <p>【IR 推進室 回答】  12 頁 盛田委員からの質問 14 と併せて回答とさせていただきます。</p> <p>【研究協力部 回答】  コロナ禍での教員の研究活動の時間確保が困難な中で、ようやく対面での授業も以前に戻りつつあります。本学の教員は研究時間確保の意味では、看護師国家試験受験資格のための授業時間の確保、臨地実習指導など特有の課題は</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>9. 大学ごとに多様なコースが提供されており選択肢の多さは魅力ですが、教員は疲弊すると思います。多数の大学と教員が同じ法人の下で活動している利点を増やし、キャンパス・教員ごとに担当する専門領域を決めて担当した教育に絞って教育活動をする、他のキャンパスからもオンラインによる受講等を可能にする、研究の指導に携わる教員は自身の専門領域に集中し、複数のキャンパス間で提供されている教育内容の重複をなくすなど、教育の効率化が重要ではないでしょうか。</p> <p>10. 博士課程教育については、学生の資質と準備性、学業にどの程度専念できる状況なのか、など、総合的に検討を要するよう思われます。どのような準備性のある学生にどのような教育プロセスで学位を取らせるのか、詳細な検討と、それを実現するための教員配置と教育方法の最大限の効率化・タイムラインの設定など、丁寧な検討が必要ではないでしょうか。</p>	<p>ありますが、研究意欲の向上において、研究活動を活性化するためにもインセンティブを持っているかは極めて重要であると思われれます。例えば研究業績や外部資金の獲得状況等を勘案し、研究環境面で優遇措置をすることなど、今後あらゆる方策を考えることが重要と考えております。</p> <p><b>【総務人事部 回答】</b> 分散しているキャンパス間で横の連携を意識して取り組むことで、教育の効率化は実現に近づくと思われます。経営としても、学校法人全体としてとらえた教員ポートフォリオを元に、専門分野に特化して、各キャンパスで相互乗り入れが実現することは、教員の負担を軽減することに資すると思えます。なお、その際には教員が自身の持つ教育ノウハウの公開を容認し、積極的に共有を推進する意識改革が不可欠です。</p> <p><b>【大学院医療保健学研究科 回答】</b> 社会人大学院のため3年で博士号を取得することの困難さは現実であります。3～5年での取得を目指すためには、優れた戦略的計画が必要とされ、1年次に研究方法特論を設置し、研究の基礎を抑え、タイムラインを設定します。具体的には、何をいつ実施するのか等の博士号取得のための日程調整、そのための準備作業など検討しています。また、学生の学修成果について、達成すべき質的水準及び評価の具体的方法などについて学内の方針に則り、三つの方針を点検・評価等を行います。このことを通して継続的に大学院教育の在り方を検証し改善していくとともに、大学全体として自ら学位の質を担保する（内部質保証が機能する）教学マネジメントの確立につなげていくことが重要です。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
	<p>大学院において高度な学問を修める者は、修了後に直ちに大学教員とならない場合でも、将来的に自らの知識や技術を他者へ教授する機会が生じる可能性が高いことが考えられるため、大学は博士課程の学生全体を対象とした教育能力を身に付けるための授業科目開設等の取組（プレFD）等を検討します。</p> <p>その際、教育能力を身に付けさせる観点からは、単なる教員の補助ではなく、授業や教育内容の企画等を経験させることも一つの取組事例となり得ます。</p> <p>学位審査の透明性・公平性の確保では、「論文発表会を公開」、「学位審査に係る委員名の公表」、「学位審査に学外の審査委員を登用」を継続的に実施します。</p> <p>博士後期課程では、院生が自らの将来的な姿をイメージし、あこがれを持てるロールモデル等の情報の提供が必要です。博士課程では、修士課程と比べて、最先端の研究や学会参加、論文投稿などの魅力的な経験情報はアピール事項となります。また、進路という観点からは、大学等における研究者などのキャリアパスを超え、ベンチャー企業の起業など、多様な在り方の発信も検討します。</p> <p><b>【大学院看護学研究科 回答】</b></p> <p>看護学研究科では、学部並びに修士課程から博士課程に続く学びを、一貫性を保ち分かりやすく学生に提示できるように検討中ですが、論文審査課程についてはすでに改訂して学生に提示してきています。</p> <p>ご指摘のように、学生の資質と準備性を明確にし、それに基づいた各専門領域での教育カリキュラムを準備するとともに、そのための教員配置を充実させることが大変重要な点であると認識しております。大きな課題であると考えられますが、ご意見を生かし今後の博士課程の再編成を進めていきたいと思っております。</p>